

インフルエンザ感染抑制剤 「パンデノン」

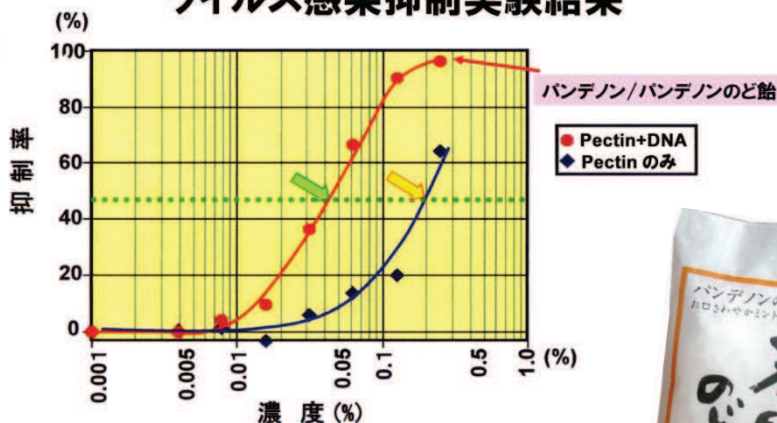
(2010年5月28日 日本特許出願、米国出願済)

近年パンデミックフルと呼ばれる新型インフルエンザによる大規模な感染の蔓延が危惧されています。数年前にはブタインフルエンザの人間への変異による大規模感染、2013年には鳥インフルエンザ（H7N9型）の中国での感染拡大などがあります。

インフルエンザの感染を予防する確かな方法はいまだに確立されておらず、マスク・手洗い・うがいなどで、感染を予防しているのが現在の予防法です。

今後発生するであろうパンデミックフルの対策として、インフルエンザの感染予防は重要なテーマです、当社は花粉症対策商品「ポレノン」の基となるCAT理論をベースにして更なる研究を重ねることで、ペクチンとDNAの組合せにより、インフルエンザの感染がほぼ定量的に抑制できることが証明でき、2012年11月にインフルエンザ感染予防剤「パンデノン」、「パンデノンのど飴」として発売を開始致しました。

ウイルス感染抑制実験結果



パンデノンの使用方法

1. 口中(なるべく奥の方)に2~3回スプレーしてください。
2. 1日、5~6回を目安にご使用下さい。
3. スプレー1本(30ml)で約1ヶ月ご使用いただけます。

<商品に関するお問合せ先> 株式会社ワイズ 0120-293-470 (受付時間:平日10:00~17:00)



【作用メカニズム】

インフルエンザウイルスの表面には細胞に感染するために作用するヘマグルチニンという物質で被われています。このヘマグルチニンは細胞上のシアル酸に結合して細胞内に侵入し、感染を引き起こします。

「パンデノン」に含有されるペクチンはシアル酸に大変よく似た構造の分子で、インフルエンザに強い吸着性を示します。ペクチンの濃度を増やす事でウイルスの感染抑制効果は同化しますが、一定の抑制効果までしか得られません。しかしながら、ペクチン溶液にDNAを加えることで、

10倍以上の高い効果が得られます。この結果は多く病態起因物質はプラスイオンを保持し、DNAのような強力なマイナスイオンを持つ分子と反応し結合し無力化するというCAT理論に基づいており、ペクチンに吸着されたインフルエンザが強力なマイナスイオンを保持するDNAに被われてしまい細胞に反応できなくなってしまうのです。

